

福島原発事故以後、私たちにできる活動とは

武井 誠（坂戸市議会議員）

1 忘れない、悲惨なフクシマ事故

（2019「さよなら原発埼玉県民集会」における小出裕章さんの講演から）

- ・あまりに馬鹿げた原発の非効率性
エネルギー効率 火力50% コージェネ80%、原子力33%
原子力発電所は古めかしい蒸気機関、正しく呼ぶと「海温め装置」
毎秒70トンの海水を発電所に引き込み、7℃上げて海に戻している。
- ・燃料のウランは、石油の数分の1、石炭の数十分の1しかない。
プルトニウムを利用するという核燃料サイクルは破たんした。
- ・原発の発電単価は一番高い。
揚水発電とセットでないと使えない。なにより、事故の費用がある。
- ・どんな機械も故障する。人間はかならず誤りを起こす。原発は即刻、廃炉。
- ・電力の恩恵は都会に、原発の危険は過疎地に押し付けられた。
- ・事故はまったく収束していない。
炉の中の状況さえわからない。増え続ける汚染水。
高い放射線量の中での廃炉作業。高い放射線量の地域への「帰還」
- ・原子力をやめられない本当の理由
利権でつながる「原子力村」。石破発言「潜在的核保有力を。」
- ・再生可能エネルギーへの転換で「脱原発」

2 私たちにできる活動とは

- ・直接的な「脱原発」の意思表示 ⇒ 選挙、署名、集会参加など
- ・再生可能エネルギーへの転換 ⇒ 日常生活の見直し
- ・思いを共有する人の輪を広げる ⇒ 「郡山の子どもたちと遊ぶ会」

3 「郡山の子どもたちと遊ぶ会」6年間の活動

- ・「アウェイ」で話す、「業界用語、専門用語」を使わないで話し合う。
- ・行動しながら、悩み、考える。
- ・当事者の話を「聴く」。現地をこの目で見る。
- ・労働運動、市民運動、政治活動との「コージェネ」

※コージェネレーションシステム・・・まず発電装置を使って電気をつくり、次に、発電時に排出される熱を回収して、給湯や暖房、別系統の発電などに利用。